

艇言

報知新聞 藤原邦充

5月号からしよーじ(渡辺編集長)のコラム「賛否両論」が始まった。「艇言」と同じく、もの申す系のコラムだ。ちよつと待て。ネタがかぶるやないか、が第一感。それと「賛否両論」にはVOL・1と回数が付いている。「艇言」もけっこう長い間書いているが、何回掲載されたのか、記者も覚えていない。「艇言」にも「第〇回」を付けてほしい。6月号が「第1回」にならないことを願いながら…。

なぜそうなったのか。それは全国発売のレースが増えたことによるし、寄せが大きい。SGやプレミアムGIは、全国発売レースと呼ばれる、他のGIなどと同時開催することはない(チャレンジカップやグランプリは別)。今年は2月に浜名湖でスピードクイーンメモリアルが初開催された。これも全国発売レース。その分、通常GIを行える期間はさらに短くなる。

中止打ち切りとなった。もし、宮島周年の最終日を中止順延としていたら、津周年と日程がかぶっていたことになる。同じデイ開催でGIの優勝戦がかぶるなど、絶対に避けたい事象だ。過密日程はそういうリスクもはらんでいる。

さらに過密日程はメンバーの固定化が進んでしまう。幻の優勝戦となった宮島周年の優出者の次走は全員、住之江周年だった。基本的にあつせんとあつせんの間には2日を空けなければならぬ。津を走った選手は住之江まで中1日となり、こちらにはあつせんされない。津を走った選手は中2日の福岡に流れることになる。必然的に宮島周年組は住之江へ流れる。GI出場選手の流動性が失われてしまう可能性もある。

では、どうすれば通常GIの開催日程に余裕を持たせることができるか。まず、ファン感謝days, ボートレース甲子園、レディース、ボートレース甲子園、レディース、ボートレース甲子園、レディースは全国発売扱いから外す。ゴ

藤原邦充(ふじわら・くにみつ)
1974年生まれ 50歳
香川県観音寺市生まれ。近畿大学を卒業。就職浪人の末、98年に報知新聞入社。芸能社会、中央競馬、ボートレース(1年だけ)、一般スポーツ担当を経て05年から2度目のボートレース担当に。競輪担当になつて観音寺競輪を取材することが夢だったが、無念の廃止。